定期的にVSバイオを撒くことで、牛床に放線菌が定着

牛の健康には VSバイオが手放せない

加茂太郎さん

㈱加茂牧場・千葉県

千葉県八千代市という都市近郊で酪農を営む加茂牧場。
農場を営む加茂太郎さんは、エコフィードの積極的利用や
酪農教育ファーム活動を通じた酪農の理解醸成など、
良質乳生産のみにとどまらず、さまざまな分野で活躍している。
そんな加茂さんが乳房炎対策と牛床の衛生管理に
欠かせないのが「VS バイオ」だ。既存の繋ぎ牛舎で導入してから
どのように変化したのか、話を聞いた。

乳房炎から農場を救った

かつて加茂牧場では、乳房炎が多発し、重症化した牛は分房が搾乳不能になったり、死んでしまったりするなど、被害が深刻化していた。原因は牛床の環境にあり、改善が求められた。しかし加茂牧場の立地上、麦稈を敷き詰めることはできず、おが粉を撒いてもクレブシェラが原因の乳房炎発生の危険があった。そこで出会ったのがVSバイオ。加茂さんは「使い始めてすぐは、目に見えて効果はわからなかったが、数カ月続けて試していると、あるとき大腸菌性の乳房炎が減少していることに気づいた。その後使用を続け、1年後には導入前に比べ明らかに減少した」と当時を振り返る。それから加茂さんは、搾乳牛とこれから泌乳が始まる産褥牛・乾乳後期牛にはVSバイオを使用している。現在は乳房炎由来で廃用になる牛はほぼいない。

繋ぎ牛舎での使い方は？

加茂牧場でのVSバイオの使い方はこうだ。

目　　的：牛床の水分調整、牛床に良質な菌を定着させる、牛床の臭気対策
準　　備：VSバイオ、コーヒー粉、エスカリウを混ぜ、敷料を作る
使用方法：搾乳時の牛床清掃後、牛が横臥する前に撒く。そのほか一日に数回、敷料をベッドに撒く
使用箇所：搾乳牛舎、独房（産褥牛、治療牛）、乾乳後期牛

数カ月単位で使い続けることで、それまで大腸菌が繁殖し棲みついていた牛床は、VSバイオ由来の良質菌で埋め尽くされるようになったという。それは、放線菌などの繁殖力の高さが影響している。

搾乳牛舎のほかに、分娩房として使用している独房にも散布している。こちらも使用中は特別な問題などは起きず順調に分娩できていたが、あるとき使用を中断した途端、産後の疾病が発生した例があった。それを経験してから加茂さんは「一度良い菌が定着し、それで順調になってしまうと手放せない」と製品の効果を実感したという。「治療薬ではないので、即効性や目に見えた効果は感じづらいが、気づけば助けられていることが多い」とも。

【農場概要】
- 経産牛85頭、未経産牛55頭
- 繋ぎ牛舎、パイプラインミルカー6台
- 日乳量平均33kg
- 平均体細胞数15万個
- 従業員5名

【製品概要】
- 名称：畜産用微生物衛生資材「VSバイオ」
- 特長：国産バーミキュライトに放線菌、細菌、糸状菌などの有用菌を吸着させた牛床散布型衛生資材
- 効果的な使い方：本製品と米糠を1対1で混ぜ、良質な菌を繁殖させ、牛床に散布する
- 効果：主に大腸菌群の減少、吸湿（吸水）、臭気改善による牛床の衛生管理
- あらゆる牛床に使用可能
- 10kg紙袋パッケージ

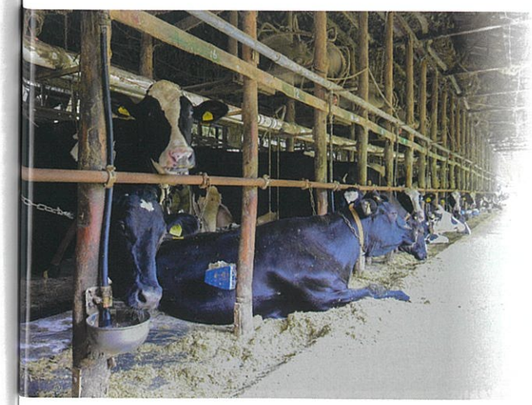
堆肥のでき具合と発酵速度がすごい

VSバイオのもう一つの特長として、堆肥の仕上がりの良さを加茂さんは指摘する。排出された糞尿には牛床散布後のVSバイオも混ざっており、それはすなわち繁殖力の高い良質な菌が混ざっているということ。堆肥製造に際しては、試行錯誤の末堆肥舎にエアレーションで空気を送り、好気発酵を促す方法に定着すると、堆肥の発酵スピードが驚くほど上がり、同時に匂いも減った。

現在同県内に第2牧場を確保し、整備と牛の導入を進めている加茂牧場は、次のステップへと発展しながらも、衛生的な牛舎、牛を健康に飼うことについてはこれからも常に意識を高く取り組んでいく。

毎回決まった分量で敷料を作り、散布する

堆肥の製造方法が安定してからは、発酵温度が上がりやすく、一般的にかかる製造時間よりも早いと加茂さんはいう



牛が寝る前、乳頭が清潔なタイミングで撒くことを意識している

ブイエス科工株式会社
http://www.vs-kakou.co.jp
〒105-0004
東京都港区新橋 5-9-6 松治ビル
TEL. 03-3434-5617
Since 1961